

みんなまで カミングアウト!

～全国津々浦々旅日和～ 第2回 旅

一人旅、二人旅、グループ旅行。食道楽に温泉巡り。皆さんはどんな旅をしていますか? 「みんなまでカミングアウト!」第2回目のテーマは「旅」。えっ? カミングアウトか? 楽しい「旅」話が盛りだくさん。まあまあそう言わずに。楽しい「旅」話が盛りだくさん。今回は日本国内に絞ってお送りします。行きたくなること間違いなしです!

農学部 ●3年
竹内翔さん
京都府出身。大阪、神奈川にも住んでいた



教育学部 ●1年
上村将尊さん
新潟県長岡市出身。



医学部保健学科 ●4年
山口優さん
長野県出身。



教育学部 ●2年
谷内友紀さん
生まれは新潟県小千谷市片貝町、育ちは新潟市。



三木 ●まず、皆さんがこれまでどのような旅をしてこられたのかを教えてください。
竹内 ●私は行きたい場所を選んで、その場所の有名な観光地へ行き、名物を食べ歩くような旅行をしています。安く旅行したいので、車に乗って4、5人ほどで行く事が多いです。
上村 ●僕も竹内さんと一緒に連れていってもらっています。その土地のおいしい食べ物や温泉などとても楽しみです。
山口 ●僕は行く過程が楽しみです。いつも自転車で動いています。1日12時間こぎ続けて、ようやく200キロ位です。時間はかかりますが、その分行く過程に色々なものが見えるので行きがいがあります。新潟は出る時に山がたくさんあり、それが楽しみです。
谷内 ●私は自然が好きで、白神山地に行ったり十二湖や十和田湖など湖を回ったりしています。今度はパワースポットに行ってみたいです。
和田 ●私は混雑している所が好きじゃないので、自然の雄大なところや島、あとは地方の博物館などに去了。辺鄙な所が多くて、北海道や沖縄の端っことか、佐渡の端っことかが多いです。端っこと言っても地理的な端っこなので、結構雄大なんですよ。
三宅先生 ●私は最初に旅をしたのが北海道で、それをきっかけにいろんな所に行くようになりました。お金がなかったのでヒッチハイクを重ねましたが、危険もあるので気を付けた方がいいかなと。出会った人達と交流があるのは素敵です。また、私は植物の調査が専門で、その絡みでいろんな所を回ったことがあります。子どもが産まれてからは子ども中心の旅になっていて、子どもが行けるような所に変化しています。
亀山 ●いろいろありますが、旅という重みで思いがあるのは若い時ですね。高校3年生の時に親に黙って北海道に行き、ヒッチハイクで

1周しまして、そこで初めて社会を知った思い出があります。それから私の頃は東京に行くのが一つの異文化体験というか、海外旅行のような気分になったもので、行く度にいい思い出になりました。
三木 ●それでは、その中でも特に印象深かったエピソードを教えてください。
竹内 ●四国一周に行った時ですね。3連休を利用して行きました。関西でゆっくり過ぎて時間がなくなり、四国を1日で回らないといけないことになったんです。帰りは高速を1人で12時間以上運転して、非常に眠たくもなりました。私は旅行に行く度にぬいぐるみを買っていて、四国で購入したぬいぐるみも勿論車に置いてあります。



昨年北海道に3回行った時に購入したマリモッコリとフクロウ。四国一周では、愛媛の道後温泉でミカンを。触り心地抜群です。(竹内さん)

上村 ●僕も12時間ぐらい高速を走ったのは、考えてみると「すごいことをしたな」って思えます。あと、毎回恒例で夜中にサークルの仲間に電話をかけるんです。「今、四国にいるよ」って言って、最後に「笑っていいとも」のように「次回北海道に行くんだけど、来てくれるかな?」と聞くと、「いいとも!」って返してくれるんです。それがすごく楽しくて印象に残っています。
山口 ●僕は佐渡が好きで、もう4周しています。自転車で走っていると青春を感じられたり、いろんな出会いがあったりするんですよ。一番面白かった出会いは、3年生の夏です。佐渡を一周して、日が暮れた時に宿を探しましたが、なかなか家がないんです。たまたま浜茶屋が開いていたので、軒先にちょっと泊めていただけませんか?と尋ねてみたら、飲み会にまぜてくださったんです。アワビまで馳走してくれて、すごく美味しかったです。翌日も飲み会があり、手伝いをしたらお駄賃まで頂いてしまいました。一つ一つの出会いが思

佐渡でのスナップ写真(山口さん)



い出深いですね。出会いが一番です。
谷内 ●私は電車やバスで行きますが、途中で見える景色がすごく好きです。もしかしたら、もう見る事ができない景色かもしれないと思ったら、一瞬一瞬全部目に焼き付けておこうと思うんです。高校の時の友だちと温泉に行った時は、夜中にいろんな話をしました。本音で語り合えて、仲が深まった気がします。夜というものすごく印象に残っています。白神山地に行った時には、リスが木の実に頬張っていて、それが漫画のようでとても可愛かったです。森の中で手を叩いて自分の手の響きを楽しんだり、「新潟から来ました」と木に語りかけたり、きれいそうな水を飲んだりして、自然を五感で味わえて楽しかったです。



和田 ●日本の東西南北の最西端とか最東端とかどこまで行けるかご存知ですか。地理的な最南端と誰でも行ける最南端というのが実は違って、誰でも行けるところの東西南北を行ったことがありました。北が北海道の宗谷岬で、西が沖縄の与那国島、南が波照間島、東は北海道の根室にある納沙布岬。誰でも行ける東西南北の端っこです。一番印象に残ったのは与那国島です。さすがに遠い場所だと感じました。何にもないところに与那国という島が浮いているんですね。『天空の城ラピュタ』という映画がありましたが、あれを見てきたような感じで、ものすごく感動しました。与那国までは1人で行きましたが、端まで行くと同じような旅行者が多くて、泊まった宿でみんな仲良くなるんです。たまたまその日が自分の誕生日で、皆さんに泡盛で祝って頂きました。与那国で別れたあとも石垣島や波照間島でまた再会して、1で行ったのにずっと誰かといいたような旅行でしたね。
三宅先生 ●私は西表島へ、ミナミコメツキガニという前に歩くカニを子どもと一緒に見に行ったのが面白かったです。子どもそっこのけで親が見ていたという感じでした。あとは沖永良部島に、波が絶え間なく続く洞窟みたいな所があり、それを見た時、誰の力も及ばず繰り返し波がきているという自然の力というものにゾーンとしましたね。例えば自分の気持ちが荒れている時でも、その場所ではずっと変わらずに波が流れているんだろうなと思うと、「ああ、なんか大したことないな」と思えるんです。



●学生支援課職員
和田 剛さん
生まれは東京都、育ちは新潟県。

●女性研究者支援室 ●特任准教授
三宅 恵子先生
十日町で育つ。その後新潟市、神戸、九州、アラスカなどで暮らす。

●大学生協サービスセンター
亀山 睦司 店長
生粋の新潟県人。

●法学部 ●4年 (新大広報スタッフ: 司会)
三木 春香
栃木県出身。

●工学部 ●1年 (新大広報スタッフ)
佐藤 俊樹
生まれは岩手県、育ちは新潟県。

●農学部 ●3年 (新大広報スタッフ: カメラマン)
鏡 仁美
生まれは山形県、育ちは宮城県。

参加者の方々の旅先(都道府県分け)に付箋をつけてもらいました。多い方は15ヶ所以上!一番人気は北海道でした!



亀山●サービスセンターで旅行の予約受付をしていると、「これは!」という人がいます。例えば近々廃止になる夜行列車にぜひ乗ってみたいというお客様がいます。なかなか予約がとりづらいんですけど、とれて、お客様に連絡をすると、そのお客様が飛びように喜んできて、感想をあとで教えますと言ってくれるんです。そういうお客様の話を聞くと、自分が旅行したような気分になってとても楽しいですね。

佐藤●先生と職員さんに聞きたいんですけど、学生時代じゃないと旅というのは厳しいですか?

和田●学生であっても社会人になっても気持ちさえあれば旅行はできます。ただ学生の時は、時間はあってお金はありません。例えばJRに乗るとしても鈍行に安く乗れる「青春18きっぷ」を利用したり、船は案外安いので、船に乗ったりしてみてもいいと思います。一方、社会人になると時間が取れないので、なるべく早く行くために、新幹線や飛行機に乗るようになって、お金も学生の時よりはかかるようになりますね。

三宅先生●すばり体力という気がします。私も「18きっぷ」はいっぱい使いました。夜行

に何度も何度も乗って東京まで行くこともあって、若い時は体力を使っていましたね。結婚したり子どもがいたりすると時間にいろいろな制約が出てきます。若い時はお金はないけれども、できるだけ旅をしてみるといいのではないのでしょうか。

亀山●学生時代の友だちと一緒に旅行するというのがとてもいいんじゃないかなと。夜中に色々おしゃべりをするとか、そういう思い出が卒業したあと一生の思い出になると思うんです。そういう意味で、一人旅もいいですが、お友だちと行く旅もお勧めです。

三木●最後に、お勧めの所、こんな旅をしてみたいという野望や、これから旅をする人に向けたアドバイスなどあったらお願いします。

竹内●私がお勧めする旅行先は北海道ですね。自然も豊かですし、スープカレーや帯広の豚丼、札幌のスイーツなど、本州とはまた違った美味しさのある食べ物がたくさんあります。また日本は温泉が多くあるので、いろんな温泉に行くのもお勧めです。今後は、在学中に日本一周をと思っています。気をつけてほしいことは、計画に余裕をもって行動すること。楽しくて疲れも少ない旅行ができると思います。

上村●今まで行った所でお勧めは四国です。高知のカツオなど食べ物も美味しいし、新潟よりずっと暖かいのでいいですよ。

山口●日本一周が憧れます。僕はもう卒業ですが、今のうちしかできないことだと思うので、皆さんは在学中に是非チャレンジしてください。やるとしたら就職後5年ぐらいで1回仕事を辞めて、1年ぐらいかけて行こうかなという野望を密かに持っています。行くなら自転車で行くのがお勧めです。自転車だと行く途中途中で、パンフレットに載ってないものがどんどん目に入ってくる分、時間はかかるけど面白いです。そして佐渡に行ってください。佐渡は素晴らしいです。

谷内●東北の山や湖をお勧めします。友だちと旅行に行く相談をすると、ディズニーランドに行きたいという子が多いので、渋いと言われますが、やっぱり心が浄化されたり、

細胞が元気になったり、自然から得られるものがあると思うんです。今は体力もあるので、これから走り回ったり匂いをかいだりして自然を感じていきたいです。

佐藤●自分は最近せわしく生きていて感じていて、この生活から抜け出したいという思いがすごくありました。今回この座談会に参加させていただいて、自分も何かやりたいなという憧れが出てきました。ゆくゆくは皆さんみたいに「全国一周するぜ!」と言えるようになりたいなと思います。

和田●最近旅行をしている若い人がいないことが残念です。ユースホステルってご存知でしょうか?主に若い方が1人でも安

心して旅行ができるようにということで世界各地に作られている宿です。基本的には相部屋なので知らない人と同じ部屋になるんですが、最近見るのは中高年ばかりで、全然ユースじゃないんですよ。もっと学生のうちに旅に出てほしいなという思いがあります。旅行する時は、どうやってそこまで行くか考えるのもひとつの楽しみだと思います。例えば初めて北海道に行く時に何で行くか。一番手取り早いのは飛行機ですが、お金がかかりますよね。私が初めて行った時は、JRで青森まで行って、函館まで船で渡りました。函館というのは昔から玄関口と言われていて、その奥にいっぱい観光地があるので、最初に函館に行ってもらいたいんです。

三宅先生●旅のしかたも、ライフステージでいろいろ変わってくるんですよ。長期的に見て今しかやれないものを見つけていくというのが良いと思います。私は観光地は老後のためにとっています。観光地って大体設備が整っているので、足腰が動かなくなった時でも行けるんです。若いうちは、観光地以外の、体を動かして行かなければならない場所に行きた

いなと思っています。あと、旅は日常と離れるということだと思うんですね。今はどこでも携帯電話でやりとりができますが、それはちょっと置いておいて、そこだけでしか楽しめない空間を楽しむと決めてやってみるのもいいかなと思います。旅先のスーパーに行くのもお勧めします。旅先の観光地のお土産って大体同じようなものなんですよ。なので、地元の人が食べる和菓子などの嗜好品などを見て味わってみるのもいいですよ。

学生の今だからこそできる旅を!

亀山●最近ハマっている旅行は、犬を飼っているの、ペットと泊まれる宿を選んで行くことです。個人的には、サービスセンターで旅行を受け付けしていると、お客様とカウンター越しに一緒に計画をさせてもらっている中で、自分も一緒に参加しているような気分になるんですね。非常にありがたいなと思っています。これからも仕事として少しでもバックアップできればいいと思っています。

三木●今日は本当に皆さんお集まりいただき、貴重なお話をありがとうございました。



山口さんの自転車工具
「これは空気入れなどの工具。自転車の旅の必須アイテムです!」

